

< 馬の改良増殖、保護利用増進及び馬事知識の普及事業（公益目的事業） >

第1 一般会計予算事業

1. 登録事業

北海道においては輓系馬、乗系馬及び小格馬、岩手県においては輓系馬及び乗系馬、青森、島根、熊本、宮崎の各県においては輓系馬を主体に登録を行った。

また、その他の地域においても乗系馬を主体に登録を行った。

(1) 登録事務の推進

登録事務の適正かつ円滑な実施を図るため、本部及び北海道事務所に技術者、事務員を配置して登録事務に当たったほか、関係団体等の協力を得て登録事務を行った。

ア、登録審査委員の委嘱

登録審査委員については、人事異動等必要に応じ、本会役職員、学識経験者、関係団体の役職員のうちから適任者を委嘱（又は任命）した（令和2年3月末現在57名）。

イ、登録審査委員研究会の開催

登録審査を厳正に実施するため、5月9日にNAR地方競馬教養センター（那須塩原市）において登録審査委員を対象に登録実務者研究会（参加者15名）を開催した。

(2) 登録の審査

登録申込みのあった馬について、関係書類及び実馬を審査して登録を行った。

登録の実施状況（令和2年3月末現在）

（単位：頭）

区分	輓系馬	乗系馬	小格馬	在来馬	計
血統登録	1,124	210	173	153	1,660
繁殖登録	234	50	60	44	388
個体識別等	-	54	45	-	99
計	1,358	314	278	197	2,147

(3) 登録証明書の発行等

登録証明書を交付するとともに、登録情報をインターネットで開示した。

(4) 登録事務の整備

電算機を利用して登録情報等の集積・管理・提供を行った。

(5) 登録業務の普及啓発

登録申請等の簡便化や各種馬事知識の普及啓発を図るため、協会ホームページを逐次更新した。

2. 乗用馬等の生産育成振興事業

(1) 乗用馬等の生産育成指導

ア、生産育成指導管理

指導技術者及び事務員各1名を置き、乗用馬の生産育成の指導・促進に努めた。

イ、乗用馬の生産育成促進指導

(ア) 北海道地区及び岩手県遠野地区の乗用馬生産農家の組織強化と乗用馬生産基盤を強化するための検討会を開催（釧路市10月22日、遠野市10月29日）するとともに生産地で開催される乗用馬市場（釧路市10月22日、遠野市10月29日）のせり名簿等の作成について協力した。

(イ) 乗用馬の資質向上を図るため、北海道標茶町で生産された乗用種雌馬「ココスパルメ」号及び岩手県遠野市で生産された乗用種雌馬「キャリージェニアル」号を買い上げ、それぞれ北海道標津町と岩手県奥州市に繁殖用として貸し付けた。

(2) 日本在来馬の保存活用推進

ア、保存活用推進会議の開催

日本在来馬の保存活用に係る各馬種団体の保存活動の円滑な運営と活性化を図るため、現地調査を行うとともに総会等（北海道和種：4月26日、御崎馬：6月5日）へ出席した。

イ、日本在来馬の保存登録

在来馬の保存のため、北海道和種（血統登録：143頭、繁殖登録：41頭）、木曾馬（血統登録：5頭、繁殖登録：1頭）、野間馬（血統登録：2頭、繁殖登録：2頭）、対州馬（血統登録：2頭、繁殖登録：0頭）、与那国馬（血統登録：1頭、繁殖登録：0頭）について登録を行った（令和2年3月末現在）。

3. 農用馬等の生産振興対策事業

(1) 農用馬の整備

農用馬の資質向上と増産を図るため、農用馬の整備と生産地への適正配置を行った。

ア、種雄馬の借受配置（転貸）

家畜改良センター十勝牧場で生産育成された純粋種6頭（ペルシュロン4頭、ブルトン2頭）を借り受け、主要生産地に配置（転貸）した。

（単位：頭）

区 分	北海道	岩 手	熊 本	宮 崎	計
ペルシュロン	2		1	1	4
ブルトン	1	1			2
計	3	1	1	1	6

イ、種雄馬の購買配置（国内購買）

ばんえい競馬で優秀な成績を残した競走馬の中から2頭を購買し、主要な生産地

に配置した。

区 分	馬 名 等	配 置 先
ばんえい馬 (日本輓系種)	キンメダル (7歳)	釧路農協連
	ホクショウゼウス (5歳)	ホクレン北見

ウ、種雌馬の購買配置 (外国購買)

仏国から改良に必要な純粋種4頭(ペルシュロン2頭、ブルトン2頭)を購買し、家畜改良センター十勝牧場に配置した。

区 分	馬 名 等	配 置 先
ブルトン	Fany De kerdo (4歳)	家畜改良センター 十勝牧場
	Deesse De Ker Punz (6歳)	
ペルシュロン	GALEZIA (3歳)	
	Hawai Des Forges (2歳)	

エ、種雌馬の購買配置 (国内購買)

ばんえい競馬引退種雌馬を買い上げ、北海道の主要産地に配置した。

区 分	馬 名 等	配 置 先
ばんえい馬 (日本輓系種)	アアモンドノース (3歳)	根室生産連
	アアモンドラッシュ (3歳)	十勝農協連
	キタノヒバリ (3歳)	ホクレン苫小牧
	クロカミダイヤ (3歳)	十勝農協連
	サカノウィナー (3歳)	十勝農協連
	シルクジャスミン (4歳)	ホクレン苫小牧
	ハシノアリーナ (3歳)	根室生産連

(2) 農用馬の生産推進

ア、農用種雄馬の適正配置

(ア) 種雄馬配置協議会の開催

家畜改良センターから借り受けた種雄馬の適正配置を図るため、配置を希望する団体の参集を得て配置協議会(十勝牧場:7月26日)を開催し、種雄馬6頭を配置した。

(イ) 種雄馬の管理指導

- i, 配置種雄馬の管理を適正に行うため、本会の職員等が配置先を巡回し、管理状況の把握と管理指導を行った。
- ii, 交配種雄馬の選定、配置転換及び登録審査等の参考に資するため、本会有配置馬、家畜改良センター有馬及び民間有の種雄馬等（種畜検査合格馬）を網羅した種雄馬名簿を作成し、関係者に配布した。

イ、農用馬の生産振興

(ア) 農用馬の生産技術の指導

農用馬の生産を促進するため、技術者及び飼養者を対象とした技術講習会等を開催した6団体に指導奨励金を交付した。

(イ) 研修会等の開催

- i, 馬技術者の養成を図るため、7月2～4日にNAR地方競馬教養センターで馬事技術者養成講習（参加者9名）を開催した。
- ii, 馬の診療技術者の養成及び生産技術の向上を図るため、1月20日～2月2日（随時参加）にNAR地方競馬教養センターで診療技術研修会（参加者5名）を開催した。
- iii, 削蹄技術の向上及び護蹄管理の面から、11月22日に家畜改良センター十勝牧場で削蹄技術研修会（参加者24名）を開催した。
- iv, 馬生産技術の向上を図るため、11月18日に札幌市で生産技術研修会（参加者87名）を開催した。

4. 馬事普及啓発推進事業

(1) 馬事普及特別対策事業

ア、イベント活性化推進事業（定額助成）

地方競馬場及び畜産関係団体等（十勝農協連他5団体）が実施した畜産フェア、農業祭等において開催する馬事普及教室等に対し、その経費を助成した。

イ、生産技術研修事業（定額助成）

農用馬生産地域の生産集団等（釧路農協連他6団体）が行う生産技術調査・研修に対し、その経費を助成した。

ウ、調査研究事業（定額助成）

農協、農協連及び農用馬生産地域の生産集団等（十勝農協連）が行う生産技術調査・研究開発に対し、その経費を助成した。

エ、共進会等推進事業（定額助成）

農用馬生産地域の生産集団等（釧路農協連他2団体）が行う共進会の活性化を図るため、その経費を助成した。

オ、全道共進会開催支援事業（定額助成）

北海道胆振東部地震のため、昨年度、開催直前に中止となり、今年度改めて開催することとなった北海道総合畜産共進会／馬部門（十勝農協連家畜共進会場：9月7～8日）の開催に要した経費の一部を助成した。

(2) 馬事思想普及教材配布事業

馬への関心や親しみを広く一般の人々に持ってもらうための普及啓発用教材（ブックレット 2,000 部）を作成・配布し、馬事思想の普及向上を図った。

(3) 馬事関係資料収集事業

馬への関心や親しみを広く一般の人々に持ってもらうため、「日本馬政史第 1 巻」を現代版に翻訳・製本（75 部）し、関係団体等に配布した。

(4) 優良農用馬学術調査事業

農用馬の生産技術の向上及び改良増殖推進に資するため、以下の大学と共同で学術調査を行った。

ア、山口大学：運動能力力学調査研究

イ、京都大学：BLUP 法馬能力検定調査

ウ、帯広畜産大学：整形外科疾患調査研究

(5) 優良農用馬生産者表彰事業

農用馬の生産意欲を喚起するため、11 月 18 日に札幌市において特に優良な多産馬（所有者）を表彰した。また、3 月 21 日に帯広市においてばんえい競馬の生産の指標となる基幹 2 競走（イレネー記念、黒ユリ賞）の出走馬の生産者を表彰する式典を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から式典を取り止め、表彰状等については、郵送等で対応した。

(6) 農用馬等生産振興推進会議

農用馬等生産振興ブロック会議

地域の実態に即した農用馬の生産振興策を検討するためのブロック会議を以下の 3 か所で開催した。

・北海道ブロック 帯広市(10 月 2 日)

・東北ブロック 盛岡市(1 月 21 日)

・西日本ブロック 熊本市(12 月 20 日)

(7) 馬事振興検討会の開催

馬の品種呼称に係る問題点等の検討のため、学識経験者及び関係団体を招聘し、座談会（馬事畜産会館：4 月 18 日）を開催した。

5. 馬の輸入精液証明書発給等事業

(1) 馬の輸入精液証明書発給等事業

仏国から日本国向けに輸出される馬精液に係る日本国内向け精液証明書の発給（令和元年度実績（3 月末現在）1,015 通）及びこれに関連する業務を行った。

(2) 馬精液等輸出入に係る実態調査事業

今後の馬精液等の輸出入の円滑な実施に向け、11月7日～11月14日(現地時間)の間、調査員を独国及び仏国に派遣し、製造販売の実態や輸出入手続、現地交渉窓口等についての実態調査を行うとともに仏国産凍結精液(ブルトン種)の試験輸入を行った。

6. 家畜改良体制運営事業

家畜改良事業団が行う家畜改良データバンクに種馬登録データの入力を行い、登録データの活用を図るとともに、馬の個体情報の統一的な管理を行うため馬事関係団体の登録馬をホームページ上で一致させる業務を行い、データベースを公開した。

7. 褒賞事業

農用馬等の生産振興を図るため、道県で開催された馬の共進会において会長賞、副賞等の交付を行った(根室種馬共進会(7月10日)、釧路種馬共進会(7月9日)、十勝総合畜産共進会(7月18～19日)、熊本県畜産共進会(11月2日)ほか)。

また、全道祭典ばんば1才馬決勝大会(11月2日)等において後援を行うとともにやぶさめ競技遠野大会(7月28日)の協賛を行った。

8. 広報事業(法人管理事項を含む。)

乗用馬市場上場馬名簿等の馬事関連情報及び各種規程をホームページに掲載したほか、会員向けの「馬事協会だより」を4月と12月に発行した。

第2 特別会計予算事業

1. 在来馬種保存事業

日本在来馬種保存のため、次の事業を行った。

(1) 在来馬種保存事業

日本在来馬種を保存、利活用するために必要な飼育管理費、保存活用研究費及び施設等整備費を助成するとともに飼養管理技術の向上を図るための専門家を派遣した。

(2) 絶滅危惧種対策事業

絶滅が危惧される3馬種(野間馬、対州馬、宮古馬)について馬種ごとに必要な施策を行うとともに野間馬については、現地指導(保護及び繁殖技術指導)を行った(3月9日)。また、宮古馬については、宮古馬保存会が開催した保存計画策定委員会にオブザーバーとして出席した(10月30日)。

2. 人工授精普及定着化事業（平成30～令和2年度）

馬輸入精液の有効活用を図り、基礎繁殖牝馬群形成のため、次の事業を行った。

（1）事業推進委員会開催等事業

ア、事業推進委員会

学識経験者等からなる事業推進委員会を開催（4月22日）し、事業の総合的検討を行った。

イ、専門委員会

学識経験者等からなる専門委員会を開催（5月20日、2月19日）し、輸入凍結精液の受胎率等の効率的なデータ収集及び分析に向けた取組みの検討及び授精師の技術向上等の取組みの検討を行うとともに基礎繁殖牝馬実証モデル作出等のための仏国産輸入精液の選定を行った。

（2）凍結精液利用体制確立事業

凍結精液を利用した人工授精の受胎率向上に不可欠の子宮深部注入法に係る研修会等を以下の3か所で開催した。

- ・遠野市畜産振興公社「遠野馬の里」 （6月26～27日）
- ・家畜改良センター十勝牧場 （10月17～18日）
- ・三木ホースランドパーク （3月23～29日）

（3）目的別基礎繁殖牝馬群形成モデル事業

競技用、乗用など用途毎に高い能力或いは適性を備えた馬の改良・増殖を図るための基幹となる基礎繁殖牝馬群の実証モデル作出のため、当協会が保有する血統データを基に選定した牝馬に仏国産輸入凍結精液を交配した。

< 法人管理事項 >

第1. 会議の開催等

当協会の事業運営について審議・協議するため、総会、理事会を開催した。

1 総会

定時総会（6月17日 馬事畜産会館2階会議室）

議案第1号 平成30年度収支計算書（資金ベース）、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書の承認に関する件

議案第2号 定款第7条の経費の負担に関する件

議案第3号 理事及び監事の報酬等の総額に関する件

報告第1号 平成30年度事業報告について

報告第2号 平成30年度監査報告について

報告第3号 平成31年度事業計画書、収支予算書（資金ベース及び正味財産増減予算書）並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について

報告第4号 公益社団法人日本馬事協会種馬登録規程の一部改正について

2 理事会

(1) 第1回理事会（5月24日 馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 平成30年度事業報告書の承認に関する件

第2号議案 平成30年度収支計算書（資金ベース）、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書の承認に関する件

第3号議案 総会に附議すべき事項の決定に関する件

第4号議案 総会に附議すべき事項の内容の承認に関する件

第5号議案 公益社団法人日本馬事協会登録規程の一部改正に関する件

第6号議案 公益社団法人日本馬事協会種雌馬貸付規程の一部改正に関する件

報告第1号 平成30年度監査報告について

報告第2号 会長及び専務理事の職務の執行状況の報告について

(2) 第2回理事会（6月17日 馬事畜産会館2階会議室）

第1号議案 公益社団法人日本馬事協会定款第7条の経費の負担（団体会員会費）に関する件

(3) 第3回理事会 (3月6日 馬事畜産会館2階会議室)

- 第1号議案 令和2年度事業計画書、収支予算書(資金ベース及び正味財産増減予算書)並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認に関する件
- 第2号議案 総会の招集及び総会に附議すべき事項の決定に関する件
- 第3号議案 総会に附議すべき事項の内容の承認に関する件
- ・議案第1号 公益社団法人日本馬事協会定款第7条の経費の負担(会費)に関する件
 - ・議案第2号 理事及び監事の報酬等の総額に関する件
- 第4号議案 常勤役員の本俸に関する件
- 第5号議案 公益社団法人日本馬事協会登録規程の一部改正に関する件
- 第6号議案 公益社団法人日本馬事協会馬輸入精液証明書発給規程の一部改正に関する件
- 第7号議案 公益社団法人日本馬事協会職員給与規程の一部改正に関する件
- 報告第1号 会長及び専務理事の職務の執行状況の報告について

3 監事監査

監事監査 (5月16日 日本馬事協会会議室)

4 監査の受検

- (1) 地方競馬全国協会による畜産振興補助事業に係る監査(10月10～11日 日本馬事協会会議室)
- (2) 清友監査法人による畜産振興補助事業のうち登録推進に係る業務監査(12月6日 日本馬事協会会議室)

第2. その他

1 会員の状況(令和2年3月末現在)

- 団体会員 69団体
個人会員 31名
賛助会員 3団体及び2名

2 役職員の異動

(1) 役員

(該当なし)

(2) 職員等

- ・3月31日 総務部長を解く 山元 護大(地方競馬全国協会からの派遣期間満了)

※ 令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。